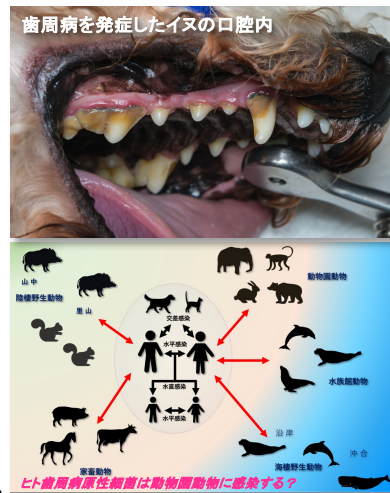


島津 徳人（口腔科学）、片平 浩孝（環境生物学）、小野沢 栄里・杉原 思穂（動物看護学）

研究の背景

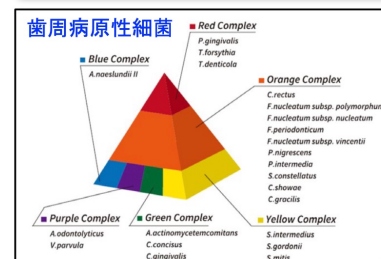
- 「**歯周病は世界でもっとも蔓延している病気**で、世界を見渡しても歯周病に冒されていない人間はほとんどいない。」とギネス世界記録に認定されています。
- **歯周病菌**は、**ヒト同士だけでなく、ペットであるイヌ・ネコと飼い主の間でも感染**することが報告されています。**歯周病の発症率は人よりもペットで多い**と報告されています。
- 自然界の野生動物には、歯周病はほとんどないと認識されていますが、これまでのジェネプロ研究の結果から「**ヒトと野生動物との“距離”が縮まると歯周病が発症**」してしまう可能性がでてきました。



アプローチ

「ヒトが動物に与えている影響」や「動物がヒトに与える影響」を“**口の健康(健口)**”から探ることで、ヒトと動物の共生のあり方を捉え直すため、動物（ペット/家畜/展示動物/野生動物）の歯周病の罹患状況を調査する「418（良い歯）プロジェクト」を立ち上げました。

- 皆さんの希望に合わせて、ペット/家畜/展示動物/野生動物などを対象に、歯周病検診（直接的な原因であるプラークの沈着状態の評価、歯周ポケットの深さ計測、X線・CT検査）を行います。
- 動物たちの歯周ポケット内の唾液を採取し、その細菌叢を次世代シーケンサーによる16S rRNA解析にて同定し、歯周病菌の感染状況を調べます。



期待される結果

- ヒトと動物の間で歯周病菌の交差感染が確認できれば、人獣共通感染症という捉え方もできるようになります（ヒトから動物に歯周病が感染するから“ヒトが悪い！”、動物からヒトに歯周病が感染するから“動物が悪い！”ということを証明したい訳ではありません）。
- 歯周病菌は唾液感染を基本としていますが、動物にどのように感染しているのかを解明することで、細菌感染の新しい経路の発見につながるかもしれません。

募集方法

麻布大学は歯科大学ではありませんので、ヒトや動物の歯周病を学ぶ機会はありません。そのため、学部・学科を問わず、歯科・口腔科学分野に興味を持つ好奇心旺盛な学生の参加を待っています！

